

**京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書**

2019年 11月 16 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 総合生存学館

職 名・学 年 特任准教授

氏 名 清水 美香

助 成 の 種 類	<b>2019年度 ・ 国際研究集会発表助成</b>	
研 究 集 会 名	The 10th conference of the international society for Integrated Disaster Risk Management	
発 表 形 式	<input type="checkbox"/> 招 待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口 頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他( )	
発 表 題 目	Resilience Approach for a Modern Risk Society: Implication for Smart Cities	
開 催 場 所	Nice, France	
渡 航 期 間	2019 年 10 月 13 日 ～ 2019 年 10 月 20 日	
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )	
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	300,000円
	使用した助成金額	300,000円
	返納すべき助成金額	0円
	助 成 金 の 使 途 内 訳	航空代金 + 鉄道運賃： 170,000円
		宿泊費： 70,000円
		参加費(一部)： 30,000円
滞在費： 30,000円		
		(端数切捨て)
当財団の助成について	ご支援いただき感謝です。このような機会を幅広く今後とも提供いただければ幸いです。	

## 【成果の概要】

総合生存学館  
特任准教授 清水美香

10月にフランス・ニースで開催された The 10th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management は、その副タイトル、Knowledge-based Disaster Risk Management: Broadening the scope by “Smart Territories” for Sustainable and Resilient Cities and Organizations（知識ベースの災害リスクマネジメント：「スマート領域」のスコープの拡大、持続可能でレジリエントな都市および組織のために）に見られるように、総合的災害リスクマネジメントの中でも特に、持続可能でレジリエントな都市または組織をどのように形成していくのか、それはどのように「スマート領域」に関係するのかに焦点を当て、異なる知識を集約化することによって従来のアプローチを問い直すことを目的として開催された。

この目的に関連して、報告者は、本年出版した著書、Nexus of Resilience and Public Policy in a Modern Risk Society(『現代リスク社会におけるレジリエンスと公共政策の連関性』)(Springer, 2019)から引き出されるエッセンスは、上記のテーマに大きく貢献し得ると考え、同集会で“Resilience Approach for a Modern Risk Society: Implication for Smart Cities”（現代リスク社会のためのレジリエンスアプローチ：スマート都市へのインプリケーション）と題する発表とそれに基づく議論の機会を得た。

同著でいう「現代リスク社会」とは、リスク社会の変化を示唆するものであり、近年の自然・社会リスクと多様なシステムおよびステークホルダーが絡むことによって生み出される、1) 複雑性と不確実性、さらに2) 高度な技術進化を特徴とする。1) および2) を背景として、「深い不確実性」（計量的な不確実性のみならず、構造面、時間面、解釈面の不確実性も含む）が一層進み、それは意思決定のあり方にも影響を及ぼすものともなる。さらに「レジリエンスアプローチ」とは、システムズアプローチ、非線形アプローチ、トリプル学習ループなどを根幹に据え、リンケージ・プロセス・時間・スケールといった異なる位相からレジリエンスを促進する、または創り出すアプローチである。

発表では、上記の現代リスク社会とレジリエンスアプローチの視点を通して、スマートシティ⇌レジリエントシティとする安易な傾向に問題提起を行いつつ、現代リスク社会の中で高度な技術化を基盤に置き、人・情報・技術の連携を図る「スマートシティ」のアプローチが人間社会にどのような、機会と課題をもたらすのかについて、事例とともに明らかにした。特にその課題として、人・コミュニティ・組織のリアルな関係性の低下、レジリエンスを育むプロセスの脆弱性、複雑なシステムの相関関係の把握の重要性と意思決定者の関係など

が挙げられた。

このようにして、これまでの研究の集大成である著書に示したことを、さらに今後の持続可能な社会、レジリエントな社会のあり方という視点から紐解き、現代社会の中で突き進められている「スマートシティ」の文脈に当てはめて問題提起ができたことは、災害リスクマネジメントの視点、持続可能でレジリエントな社会の視点、どちらからみても有意義なことであった。この発表の機会をきっかけにして、さらに議論を深めたい、共同セッションをやろうという誘いも受けることができた。このように日頃の研究を社会に還元し、より良い社会創りに貢献する道筋をさらに深く、明確にすることができた。そのことに心より感謝したい。